

town

小さな拠点づくり

Creating a small base



私たちの町をご紹介します



津和野町

畑迫地区

(畑迫地域まちづくり委員会)

ホタルが飛び交い アジサイが彩る地域

「山陰の小京都」と呼ばれる津和野町の山間部に位置する畑迫地区。山と川と田園が広がる美しい地区で、6月になると津和野川周辺にたくさんのゲンジボタルを見ることができます。町の灯りが消えた頃、無数のホタルが飛び交う光景は見る人を魅了します。また、6月末には地元団体が植栽したアジサイが道の両脇に咲き誇り、約4キロにわたる「あじさいロード」として津和野の初夏を彩ります。

歴史的建造物としては、旧堀氏庭園があります。かつてこの地に銅山があったことから、銅山師であった堀氏が銅の採掘によって繁栄を極め、その豪華な住居や庭園を観覧することができます。



小さな拠点づくりとは？

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。

小さな
拠点
づくり

idea

小さな拠点づくり

Creating a small base

津和野町

畑迫地区

(畑迫地域まちづくり委員会)



私たちの
アイデア

地域の交流の場
「地域拠点ほたる」



目標

活動内容

きっかけ

まちのひとの声



「地域拠点ほたる」ができた事で、サロンや食事会など地域の人と顔を合わせる機会が増え楽しく過ごせています。今後もイベントがあれば参加していきたいです。

SNSにより地域の情報を発信するなど、新しい取り組みを実施することによって、Uターン・Iターン者を増やしていきたいです。民泊や観光客を増やすことで、経済的な面でも地域の活性化に繋がればと考えています。

また、医療に関しては遠隔医療を向上させ、頻繁に病院に行かなくても医療機関に相談できるようなシステムを作りたいと考えています。そのほか交通が不便な地域において高齢者を対象としたボランティア輸送も今後取り組みたい活動です。

地域の人たちが気軽に集まり、交流できる場所を作ろうと「地域拠点ほたる」ができました。以前は別の建物だった場所を自分たちでリフォームし、喫茶やサロン、食堂、時には手打ちそば屋を開催するなど、地域みんな活用しています。

近所に商店がないので、ミニコンビニとしてジュースやアイスクリーム、農家の野菜や調味料なども販売しています。

少子高齢化が著しく進んでおり、地区の年代別人口分布を確認したところ、10年後には担い手となる若い世代だけでなく、60歳台ですら極めて少ないことが分かりました。

そうした状況への危機感から地元の人たちに声をかけたところ、最初はなかなか協力が得られませんでした。Iターンで移住してきた若い方たちの協力のもと2020年に「畑迫地域まちづくり委員会」を中心に「小さな拠点づくり」の実践活動を始めました。



小さな拠点づくりとは？

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。

小さな
拠点
づくり

idea

小さな拠点づくり

Creating a small base

津和野町

畑迫地区

(畑迫地域まちづくり委員会)



私たちの
アイデア

古民家を活用した憩いの場所
「ほたるの宿」をはじめとした
関係人口づくり



目標

活動内容

きっかけ

SNSにより地域の情報を発信するなど、新しい取り組みを実施することによって、Uターン・Iターン者を増やしていきたいです。民泊や観光客を増やすことで、経済的な面でも地域の活性化に繋がればと考えています。

また、医療に関しては遠隔医療を向上させ、頻りに病院に行かなくても医療機関に相談できるようなシステムを作りたいと考えています。そのほか交通が不便な地域において高齢者を対象としたボランティア輸送も今後取り組みたい活動です。

築百年近い古民家をリフォームし、民泊ができる宿を作りました。この近辺では、多くのホテルがあることから「ほたるの宿」と名前をつけ、畑迫にゆっくり滞在してもらいながら、自然を満喫してもらおうのが目的です。また、体験ツアーも企画しており、サイクリングをしながら農家の方から野菜を購入し、その食材を使ってピザを焼くツアーや、お寺で座禅や写経を体験し、精進料理を体験するツアーなども企画しています。こうしたさまざまな取り組みを通じて、県内外の方に畑迫の魅力を発信しています。

少子高齢化が著しく進んでおり、地区の年代別人口分布を確認したところ、10年後には担い手となる若い世代だけでなく、60歳台ですら極めて少ないことが分かりました。

そうした状況への危機感から地元の人たちに声をかけたところ、最初はなかなか協力が得られませんでした。Iターンで移住してきた若い方たちの協力のもと2020年に「畑迫地域まちづくり委員会」を中心に「小さな拠点づくり」の実践活動を始めました。



小さな拠点づくりとは？

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。

小さな
拠点
づくり